令和４年度 第３回学校運営協議会議事録概要

日時 令和５年１月30日 15：30～17：00

場所 大阪府立堺工科高校 会議室

出席者（委員・事務局）

大阪公立大学教授 土井 智晴　　大阪工業大学教授 皆川 健太郎

株式会社ダイネツ係長 西尾 真由美　　大山連合こども会 玉城 優

堺市陵西中学校長 村田 政教　　堺工科高等学校 PTA 会長 入江 奈美

堺工科高等学校教員　東 秀行（校長）・松本 悠紀夫（教頭）・義永 高徳（事務部長）・小寺 雅仁・堀江 拓史・安井 隆嘉之・真田 正樹・長谷川 健・神前 和博・山本 裕規・鶴見 宗樹・治村 賀洋子・奥村 将也・木村 唯那

１．開会のあいさつ（校長）

・卒業式の案内について

・教職員の働き方改革について

・大阪府の動きについて

第二次教育振興基本計画が出され10年間基本方針は変わらない

再編整備方針に沿って令和５～９年にかけて府立高校の10校程度が再編成予定

工業人材育成のため工科高校については定員割れ３年ですぐに再編成の対象にはなりにくい

・本校の動きについて

新しい時代に即したデジタル技術に対応できる教育をめざし、新しい設備の導入・更新を行い、技術力の向上に努める。

企業連携・広報活動のさらなる拡充（イオンモール堺鉄砲町にて「ものづくりワークショップ」参加。大仙小学校にて「ゲルマニウムラジオをつくろう」の出前授業）

・中学校での技術家庭科教員の人材不足もあり、早期のものづくり教育の発展が必要

２．学校経営計画等について

（１）令和４年度学校経営計画の自己評価について（首席）

ア．人間力の育成

・生活指導では遅刻数が前回の813回から1502回に推移。また１人あたりの遅刻数も1.41回から2.60回に推移している。２学期から生徒の気の緩みや、寒くなってきたことが考えられる。

・転学・退学者数においては、前回の転学者数２名、退学者数２名から、今回の転学者数４名、退学者数９名と増えている。

・文化祭の生徒アンケート結果が80%以上の肯定率があり、大半の生徒が行事への取

組みに満足している。

・３年生の進路では就職１名・進学１名が未決定。引き続き指導を継続している。

イ．工業教育の充実

・資格取得者数が現時点で 593 名。全国製図コンクールで最優秀賞６年連続。

【委員】目標の 850 名は達成できるか。

【首席】昨年度より取得者は減少している。３月には 850 名前後の見込み。

ウ．教員の資質向上

・技術向上のため、外部講師を招いた研修や各系内での専門的な技術研修を行っている。全ての系で 60%以上の参加率がある。

・教員間の授業見学の参加率が低いのが問題であり、来年度参加率をあげる検討が必要である。

・10 月の人権研修参加率が 53%と低かった。

【委員】参加率が低い場合、時期の変更を検討してみては。

【首席】今年度は計画段階で問題があり、来年度は計画から改善していく。

【委員】参加が難しい場合もあるので、研修の様子を録画して参加できなかった先生が後で見られるようにしておけばよい。

エ．地域との連携

・伝統工芸士（堺打ち刃物）や堺溶接協会の方にきていただき、課題研究の中で技術技能を教えていただいた。また人の役に立つものづくりを経験することによって生徒たちからとても高い充実感があった。（溶接：学校スロープの制作　刃物：オリジナル刃物制作）

・地域連携に参加したの生徒に対するアンケート肯定率は 100%。

（２）令和５年度学校経営計画（案）について（校長）

・中期計画について大きは変更点なし。

・全体的に重複感のある部分や、明示する必要がないと感じる部分を削除した。

・ホームページの更新や校長だよりの更新、Twitter、Instagram の発信にも力を入れていく。

・各項目の目標設定値の大きな変更はなし。

・変更点：人格の陶冶を育む　→　人格の陶冶に取り組む

人権教育の項目に「合理的配慮」の追加

働き方改革についての文言（大阪府より全校一斉退庁の実施についての内容変更があったため）

【委員】働き方改革について、全校一斉退庁を水曜に限定されるとクラブや業務などに影響があるのではないか。

【校長】水曜が無理な場合は木曜などでも調整が可能。

【委員】平均退庁日について
【教頭】教員数 74 が母数。19 時までに退庁している人数の割合。
【委員】退庁を促す声かけはいいが、実際は業務量の改善もセットで考えるべき。まずは少ない時間で少ない人数でできるように仕事を考えることが重要。

（３）定時制の課程の学校経営計画及び自己評価について（校長）
・定時制の実態に応じた目標設定を掲げている。
・生徒数も少なくなっており、教員の連携により落ち着いた状態が維持されている。
・生徒一人ひとりに寄り添った教育をしている。

（４）進路状況について（進路指導主事）
・卒業予定者 177 名。現時点で就職内定 129 名、公務員 1 名、縁故 9 名、未定 1 名。進学者数は大学 15 名、短大１名、専門学校 18 名、未定１名。その他２名

（５）イオンモールものづくりワークショップ（首席）
・12 月 17 日（土）イオンモール堺鉄砲町店で布施工科高校とものづくりワークショップ（４テーマ：LED ライト制作、バスボム制作、ハンドベル制作、プラ板キーホルダー制作）を実施。258 名分の体験を準備し、整理券は全て配布された。
・地元でのイベントで好評であった。生徒・教員とも肯定的な意見が多く、来年度以降も継続して行っていきたい。
【委員】孫と一緒に当日参加したが、非常に喜んでいた。来年度もあれば是非参加したい。テーマの１つに小学校高学年向けのプログラミングを取り入れてはどうか。スクリーンの映像が薄くて見えにくかったので改善が必要。運営していた生徒たちの子どもへの対応が上手くて驚いた。
【委員】子どもが運営として参加していたので見に行った。ものづくりの楽しさが伝わるので続けていってほしい。映像の音量が小さかった。展示物などももっとアピールしたほうがよい。

（６）授業アンケート等について（教頭）
・どの学年でも前期より後期の方が数値は下がっている。
・生徒自身の取組み評価が低いところもあるが、授業に関しての評価は高くなっている。先生方の頑張りが見てとれるのではないか。生徒の頑張りを引き出すのが課題。
・令和３年度、令和４年度の時間外勤務データについて、担任に業務がかたよっている可能性がある。
・中学生の本校への進路希望数は現在 164 名で定員に達していない。説明会などの広報活動は行っているが、新たな取組みが必要か。

・入学者数に対する進級者数割合、卒業者数割合の数値は年々伸びてきている。
・本校ホームページのオリジナルパノラマビューについて

３．協議（会長・各委員）

（１）教員の業務時間、働き方改革にどのように取り組めばいいか

・資格指導や大会・イベントへの参加、クラブ活動の指導など大変なことが多い。（曜日に縛られずに）個々の先生にあった休み方ができる働き方改革をしてほしい。
・仕事のやりがいを上司として判断すべき。個人がどう思っているのかについて考える。一律の休みではなく、いつでも休める職場環境が大事。生徒へ満足いく教育がなされることも大事。
・私の会社よりも働き方改革が進んでいる。
・一律に休みといわれても逆に負担になることもある。やる気のある先生や生徒の気持ちを削ぐようなことになりかねない。
・人を増やせない中で業務の削減は難しい。
・改革をするなら予算をつけて外部委託する。教員のすべきでない仕事は他に任せる。急な時に休める環境づくりを大切にしてほしい。
・業務改革が必要。業務に対する人数・時間を見直す。今まで通りでは無理なので、何かをやめるという選択をする。

（２）学校の PR について

・堺工科高校として力を入れている「資格支援」についてもっとアピールすべき。生徒も保護者も知らないことが多いのでホームページで申し込み受付の時期などを周知してほしい。
・出前授業をした生徒に小学生の感想などを見せてみてはどうか。
・広報に力を入れすぎても回らなくなる。どの対象への広報が必要なのか取捨選択してほしい。
・中学生も減ってきている。その減少と希望者の減少の差がどうなっているのか見極める。効果の薄い説明会などはやめるという考えもいい。

４．事務連絡（教頭）

・委員の任期終了について
・来年度の学校運営協議会日程

５．閉会のあいさつ（校長）